

令和 4 年 4 月 1 日更新

府営公園における無人航空機の飛行の取扱いについて

航空法の一部を改正する法律（平成 27 年法律第 67 号（平成 27 年 12 月 10 日施行））の改正等を踏まえ、府営公園における無人航空機の飛行の取扱いを以下のとおりとする。

府営公園における「無人航空機」の定義

人が乗ることができない飛行機、回転翼航空機、滑空機、飛行船であって、遠隔操作又は自動操縦により飛行させることができるもの。いわゆるドローン（マルチコプター）、ラジコン機、農薬散布用ヘリコプター等が該当する。

なお府営公園においては、航空法で定めている重量による区別は行わず、全てを「無人航空機」として扱う。

1. 府営公園における無人航空機の飛行に対する基本的な考え方

無人航空機が落下した場合に、他の来園者や近隣住民へ危害、公園施設の損傷及び汚損を及ぼす可能性が高く、不安を与えるため、無人航空機を許可なく飛行させることは、原則禁止とする。

【根拠規定】

大阪府都市公園条例第 5 条第 8 号

都市公園においては、次に掲げる行為をしてはならない。

一 公園施設を損傷し、又は汚損すること。

（中略）

八 他の来園者又は近隣住民に著しく迷惑を及ぼすおそれのある行為をすること。

※搜索、救助のための特例について

国、地方公共団体又はこれらの依頼を受けた者が、事故・災害に際し、搜索、救助のために無人航空機を飛行させる場合は、航空法第 132 条（飛行の禁止空域）及び第 132 条の 2 第 5 号から第 10 号まで（飛行の方法）の規定が適用されないことから、府営公園においても、搜索や救助などで緊急を要する場合については特例的に認める場合がある。

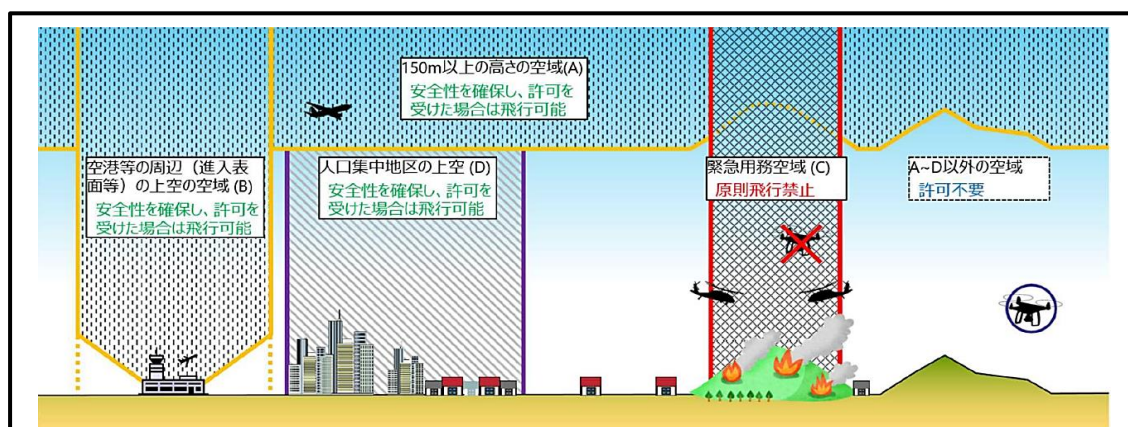
2. 無人航空機の飛行の許可

他の来園者の立ち入りを防ぐことができる場合において、無人航空機の飛行については、許可することができる。

無人航空機の飛行を希望する者が、法令を遵守した上で他の来園者及び近隣住民の安全を十分に確保することを誓約し、飛行区域の設定にあたっては他の来園者及び近隣住民への危害、公園施設の損傷及び汚損を回避する策が十分に講じられていると公園管理者が判断できるときは、無人航空機の飛行を許可することができる。

(1) 法令順守

ア. 航空法による許可が必要な区域を飛行させる場合は、航空法の手続きを完了させていること（ただし、航空法の許可が不要な場合を除く）。航空法による許可が必要な区域については、下記参照。



(A) 地表又は水面から150m 以上の高さの空域

(下記 (B) 及び (C) の空域以外の空域並びに地上又は水上の物件から30m以内の空域を除く)

(B) 空港周辺の空域

① 大阪国際空港、関西国際空港

空港の周辺に設定されている進入表面等の上空の空域、進入表面等の下の空域又は空港の敷地の上空の空域

② その他空港やヘリポート等

その他空港やヘリポート等の周辺に設定されている進入表面等の上空の空域

・進入表面等について<https://www.mlit.go.jp/common/001109751.pdf>

(C) 緊急用務空域

国土交通省、防衛省、警察庁、都道府県警察又は地方公共団体の消防機関その他の関係機関の使用する航空機のうち捜索、救助その他の緊急用務を行う航空機の飛行の安全を確保する必要があるものとして国土交通大臣が指定する空域（以

下「緊急用務空域」という。)

※山火事等により緊急用務空域が指定された場合には、インターネットや航空局無人航空機Twitterで確認できる。

(https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000003.html)

(https://twitter.com/mlit_mujinki)

(D) 人口集中地区の上空

平成27年の国勢調査の結果による人口集中地区の上空

※飛行させたい場所が「空港等の周辺の空域」や「人口集中地区」に該当するか否かは、以下の航空局HPを通じて確認できる。

(https://www.mlit.go.jp/koku/koku_fr10_000041.html#kuuiki)

[国土交通省航空局ホームページより抜粋]

イ. 航空法による許可が不要な区域で飛行させる場合でも、下図の条件（航空法第132条の2）を遵守すること。

なお府営公園においては、航空法で定めている重量による区別は行わず、全てを「無人航空機」として扱い、遵守すること。

！ 飛行空域を問わず順守する必要があるルール

※下記のほか、飛行前確認、衝突予防が必要になります。

① 飲酒時の飛行禁止	② 危険な飛行禁止	③ 夜間での飛行	④ 目視外飛行
⑤ 距離の確保	⑥ 催し場所での飛行禁止	⑦ 危険物輸送の禁止	⑧ 物件投下の禁止

⑤ 距離の確保: 30m以上 (人、車、建物)

⑦ 危険物輸送の禁止: 毒物類、引火性液体、火薬類、凶器など

☞ ③～⑧の方法によらずに飛行させたい場合には、国土交通大臣の承認が必要です。

[国土交通省航空局ホームページより]

ウ. その他、飛行を希望する場所に応じ、電波法や小型無人機等飛行禁止法など考慮すべき法令や規則を遵守すること。

(2) 飛行計画

ア. 飛行内容

- ・飛行を希望する場所の特性、環境、立地条件や周辺住民との関係を考慮すること。
- ・飛行区域への他の来園者の立ち入りを制限する方策（仮設フェンスの設置等）をとること。
- ・池や既存有柵施設（球技広場や営業期間外のプール等）など、他の来園者が立ち入らない区域の上空を飛行させること。
- ・公園内外の施設や近隣の住居から十分に離隔をとること。
- ・発着点がどこであるかを問わず、府営公園内を飛行経路に含む場合、許可申請の手続きが必要である。

イ. 安全対策

- ・気象（仕様上設定された飛行可能な風速等）、機体の状況及び飛行経路等を考慮した計画、緊急連絡体制を設けること。
- ・飛行させる機種仕様上設定された飛行可能な風速以上の風や突風が発生するなど、無人航空機を安全に飛行させることができなくなるような事態が発生した場合には即時に飛行を中止するなど、中止基準を設けること。

(3) 許可申請

飛行計画が妥当だと確認できるときのみ、無人航空機の飛行に係る許可をすることが可能である。使用する施設に応じ、以下のとおり都市公園法又は大阪府都市公園条例に基づく許可手続きを行うこと。飛行ルートが複数の施設を含む場合は、それぞれ許可が必要である。

ア. 他の来園者の公園利用を制限する必要があるとき

① 野球場など利用料金対象施設を使用する場合

許可手法：行為許可

根拠規定：大阪府都市公園条例第4条第1項第4号（別表第1に掲げる公園施設利用）

② 広場にフェンス等の構造物を設置し、飛行区域を区切って使用する場合

許可手法：占用許可

根拠規定：都市公園法第6条（第7条第6号 一時的な催しに伴う仮設工作物）

※占用範囲は、フェンス等で囲まれた区域全体とする。

イ. 水上など、他の来園者の公園利用を制限することなく安全確保ができるとき

許可手法：行為許可

根拠規定：大阪府都市公園条例第4条

第2号（ロケーション、業としての撮影許可）

第3号（競技会、イベント等の催しの許可）

（4） 申請者責任

- ・公園施設や第三者などに対し損害を与えた場合は、申請者の責による旨を書面にて了承し、「誓約書」を提出すること。

（5） 必要書類

- ・許可申請書（使用する区域により）
 - 行為許可の申請書（都市公園内行為許可申請書、公園施設使用許可申請書）
 - 占用許可の申請書（都市公園占用許可申請書）
- ・府営公園における無人航空機使用にかかる許可申請別紙
- ・誓約書

3. 運動目的で運動施設を利用する際に、無人航空機を飛行させる場合の取扱い

運動施設における競技大会の記録等のために、無人航空機の飛行を希望される場合は、主目的が運動施設利用であることから、無人航空機の飛行のために別途許可申請を取る必要はない。ただし、航空法等の法令順守、必要書類の提出は必要である。

（1） 法令順守、飛行計画、申請者責任

「2. 無人航空機の飛行の許可」のとおり。

（2） 必要書類

- ・府営公園における無人航空機使用にかかる許可申請別紙
- ・誓約書

※運動施設の予約は、別途、手続きが完了していること。

（3） 使用料

通常の運動施設利用料（無人航空機利用に伴う別途の徴収はない。）

(府営公園における無人航空機使用にかかる許可申請別紙)

公園名	
施設名称	
飛行日時 ※1	
飛行高度及びルート ※2	
飛行目的	
飛行機種 ※3	
他の来園者の 立入制限要否・方法 ※4	
航空法上の国土交通大臣の許 可等の有無 ※5	

- ※1 予備日の設定がある場合は、予備日を併記すること。
- ※2 飛行ルートと公園の位置関係の分かる図面を添付すること。
- ※3 ①機種の仕様の分かるもの（仕様書等）を添付すること。
②カメラや計測機器等を無人航空機に搭載するときは、搭載物の仕様書等を添付すること。
- ※4 立入制限が必要であるときは、制限方法の分かる図面等を添付すること。
- ※5 航空法等の各種法令に基づく許可が別途必要な場合は、その許可を受けたことを示す許可書の写しを添付願います。

誓約書

令和 年 月 日

大阪府 土木事務所長 様
管理事務所長 様

申請者
住所
氏名

担当者名
連絡先

令和 年 月 日 (曜日) (午前・午後) 時から (午前・午後) 時まで
(目的) を行うため、無人航空機の飛行にかかる(行為・占用)
許可申請をいたしますが、無人航空機の飛行に際しては都市公園法、大阪府都市公園条例及
び関係法令を遵守するとともに下記の事項について誓約します。

記

1. 施設及び付帯設備、物品等の使用については、十分な配慮をし、許可期間終了までに原状復旧、返却します。万一損傷等した場合には申請者が責任をもって弁償します。
2. 申請事項により発生したゴミ等は責任をもって持ち帰り、公園内で処分しません。
3. 飛行物の騒音や墜落等により、他の来園者及び近隣住民に迷惑をかけないように配慮します。
4. 申請事項に関し、他の来園者や近隣住民からの苦情やトラブルが発生したときは、責任をもって解決します。
5. 申請事項に起因し、第三者へ損害を与えた場合は、全て自己の責任において解決すること。また、この場合は、発覚後直ちに公園管理事務所長に届け出ること。
6. 来園のための自動車については、周辺路上に駐車しません。
7. 天候及び施設の理由により、係員から利用中止の指示があったときは、その指示に従います。
8. 許可内容に違反した場合は、行為前、行為中にかかわらず許可を取消されても異存ありません。また、取り消されたときは、その指示に従い原状回復します。

以上

(参考) 国土交通大臣の許可が必要な空域の該当状況

- ・ドローン等の飛行許可が必要かどうか、国土交通省に確認が必要。

公園名	許可が必要な空域 (該当する場合○)	
	(B) 空港周辺の空域	(D) 人口集中地区の上空
服部緑地	○	○
箕面公園	—	—
寝屋川公園	—	—
山田池公園	—	—
深北緑地	—	—
久宝寺緑地	○	○
枚岡公園	○	—
錦織公園	—	—
長野公園	—	—
石川河川公園	—	—
住之江公園	—	○
住吉公園	—	○
大泉緑地	—	○
浜寺公園	○	○
二色の浜公園	○	○
蜻蛉池公園	—	—
りんくう公園	○	○
せんなん里海公園	○	—
泉佐野丘陵緑地	—	—